

JAPC 主催 アコーディオニスト・大新年会 2026
2026年1月10日(土) START 17:15 会場：ピアンタ日暮里

新年を迎え、まだ正月気分の残る1月10日(土)早くもアコーディオン界の活動が始まりました。イタリアン料理とビールなど飲食しながら、各地からアコーディオン仲間が集い新年の弾き初めを楽しみ素敵な音色を響かせました。スマホで撮影させて頂きました写真のピントのボケや、わからず載せられなかった曲名もありますが、楽しく過ごした会場の様子を紹介します。

あいさつと乾杯(JAPC 会長：小川正浩)

『2011年発足ですのもう15年が経ちました。今日は、プロの方もいらっしゃいます、おいしいお酒とおいしい食事とステキな演奏を聴きながらみなさんと一緒に楽しく過ごせればと思っております』と挨拶。そして乾杯・・・今年もアコーディオンの発展を願って「乾杯！」(“乾杯”・拍手)

進行について(事務局の真野哲郎さん)

『今日は2時間半の飲み放題です。コルグさんからデジタルアコーディオンを展示していただいております。この程トンボ楽器が新しく取り扱うことになったブランド「スキャンダッリ(Scandalli)」というアコーディオン」ボタンと鍵盤を持ってきますのでご自由に演奏いただいてOKです。食事が少し進んできたらみなさんも演奏していただきます』と話がありました。しばらくは飲食しながら歓談の時間です。

進行は事務局の島田彩乃さん。



「まずは楽器の機能紹介ということで、10分ぐらいKORG(コルグ)社に演奏して頂きます」と、昨年もデモ演奏された演奏者ファティさんを紹介。(写真は演奏の様子)

その後は、演奏を申込まれた方が順に紹介され、思い思いの曲を演奏しました。

トップバッターの森本学さんは♪「オーソレミオ」と♪「マルゴのワルツ」。また後半でも演奏されました。

以降、順次、申込まれていた方の演奏が続きます。

♪「ミュゼットの女王」、そして♪「ラ・クンパルシータ」を演奏されたいわつなおさんは、『数日後に予定されている「トリオ・ロス・ファンタンゴス」のツアー演奏で東京に出てきている』と自己紹介されました。

♪「パリの空の下」(佐藤将さん)。

♪「山の人気者」(満武直人さん)

♪バックギンギン奏法という左手のおしゃれなコードを使った伴奏教則本(本人著)を紹介して演奏された柴田潔さん。

♪「有楽町で会いましょう」(村上一郎さん)

♪シャルル・トネレの「街角」(本田千香さん)

♪普段見かけない大きなアコーディオンで演奏されたのはトンボ楽器の藤原さんです。

♪「イパネマの娘」と♪「オブラディ、オブラダ」の2曲弾き歌い。(大塚雄一さんは、独奏の弾き語りとデュオの弾き語りです)

♪「帰ってきたツバメ」を演奏された松本みさこさんは『半年前にくも膜下出血を起こし、こういうところで弾くのは久しぶりです。2月にクレズマーのクラリネット奏者(Michael)の来日記念公演があり私も参加します』と元気になられた近況を紹介されました。

♪「世界は日の出を待っている」(小川正浩さん)

♪「The Cat」は、小川正浩さん(コルグ電子アコ) & 真野照久さん(生アコ)で演奏。

♪「スタイルミュゼット」(真野照久さん)

♪真野照久さん・いわつなおさん・松本みさこさんの三人での演奏もありました。

最後に、進行をされた事務局の島田彩乃さんが演奏され、出演者の演奏を終えました。

他に、1名、名前と曲名がわからない方がおりました。

◇◇◇演奏された方の様子◇◇◇



来賓紹介

☆安倍純二さん(池部楽器店)・・・これから始めたいという方が増えているなという印象を持っています。これからもみなさんと一緒に広めていければと思っています、よろしくお祈いします。



☆KORG 電子アコーディオン国内営業部長、前坂さん・・・前回は参加させていただきました。今回当社のファティーがデモンストレーションをさせていただいただけでなく真野社



長はじめみなさんに使っていただけるようになる就非常嬉しいです。こういうところで使っていただけると使って楽しい楽器だと思っていただけたんじゃないかなあと思います。いろんな使い方があるのかなあと思ひます。我々も感じましたので非常に良かったなあと思ひます。一つのアイテムとしてこれからも触っていただけたらと思ひますので是非よろしくお祈い致します。

☆株式会社谷口楽器代表取締役社長・岩田浩さん・・・お店を閉めてからでないと思ひ参加が難しいので遅くなりました。みなさん大いに楽しまれたことと思ひます。



閉会の挨拶 JAPC 副会長・真野照久さん
お忙しい中このように集っていただき本当にありがとうございます。私も楽しく演奏させていただきました。みなさん楽しんでいただけましたことと思ひます。



今年もアコーディオン界をみなさんと盛り上げていきましょう。(拍手) 続いて三本締め・・・我々音楽家として締めたと思ひます。「最初は人差し指1本で静かにチョチョチョン チョチョチョン チョチョチョンと始める、そして、2本、3本、4本とだんだんクレッシェンドしていく。最後5本になったときにフォルテッシモになるようにお祈いします。」と説明があり始めます。はい、チョチョチョン、チョチョチョン、チョチョチョン、チョン～～～ヨッ、最後は5本で拍手のようにパパン、パパン、パパン、パン(拍手)で中締となりました。会場には、昨年4月に逝去されたトンボ楽器製作所会長真野泰治様の奥様の姿も見られました。

この後残られる方もいて、一角にまとまるよう席を移動されておりました。

1月の寒さに負けず今年も元気一杯アコーディオンの音が響き始めました。(記:乙津)

『中山英雄を偲ぶコンサート』にアコーディオンで参加

2026年1月23日(金) 開演 16:00 会場：四谷区民ホール

音楽センターで60年間アコーディオンを指導された中山英雄先生は、2024年7月逝去され、今年の1月に「中山英雄を偲ぶコンサート」が多くの団体との共催で開催されました。いわゆる「偲ぶ会」をコンサート形式で行ったものです。昨年の4月に「偲ぶ会」準備会が発足し、9月に「中山英雄を偲ぶコンサート」実行委員会が出来、準備を進めてまいりました。アコーディオン関連では、音楽センター講師会議の現役先生方のアンサンブルを1曲、「偲ぶ会」の趣旨に賛同される方々での合奏曲を2曲ときめ、昨年の8月下旬に、教室、サークル、個人を問わず、幅広く合奏演奏者を募りました。21名が集ってくれ10月から練習を始めました。合奏団体の名前も「アコーディオンMIP(ミール：平和)」と名付けました。4回しか全員で合わせる機会がありませんでしたが、中山先生への感謝と思いを引き継いで行く決意を込めての演奏でした。そのコンサートの様子を紹介します。(出演者の敬称略)

プログラムは2部にわかれていて、ロシア民謡満載です。チケットは完売でした。筆者も出場したので、第1部は、自分達の出番が終わるまで客席で聴くことはできなかったのですが、最初の3つは出演者と曲目だけの紹介になります。

《第1部》

1. 大田智美 ソロ 「秋のまどろみ」
2. 大田智美・北川翔 デュオ 「ダニーボーイ」
(アイルランド民謡)
3. 合唱団「樫の木」指揮：高橋進也 ピアノ：野村紀子 「灰色の鷲」「消えない顔」(男声)「一本の鉛筆」
4. 音楽センターアコーディオン科講師会議「カタリ・カタリ」出演者「写真1列目左から柴崎利圭/大田智美/森陽介/川口裕志/関英昭」



※進行の都合で写真のように4番と5番の出場者が同時に舞台に座っています。前列の5人が講師会議のメンバーです。アコーディオンMIP(ミール：平和)のメンバーは、「カタリ・カタリ」の演奏を後ろで聴いていました。

5. アコーディオンMIP(ミール：平和)「白樺」/ジャズ組曲第2番より「ワルツ第2番」指揮：森陽介
「カタリ・カタリ」の演奏が終わるとアコーディオンMIP(ミール：平和)の合奏です。

演奏曲は中山先生の大好きだった「白樺」(ロシアの古いワルツ)とショスタコーヴィチの「ワルツ第2番」です。講師会議の中から、大田先生が「アコーディオンMIP」に加わり、20名で2曲演奏しました。後日、客席で聴いていたアコーディオン仲間から、『「ミール」の演奏、四回しか合わせていないとのことでしたが、とてもよくまとまっていて、印象に残る演奏でした。』と感想をいただきました。



6. 「地底の歌」を歌う！合唱団 「地底の歌」指揮：高田龍治 アコーディオン：大田智美、森陽介
7. バラライカ・アンサンブル・ポーレ「ポーリュシカポーレ」指揮：小坂幸世 パーカッション：山本晃弘(客演) アコーディオン：森陽介
8. 合唱団「道」「百万本のバラ」「シベリアの密林で」指揮：小坂幸世 ピアノ：二宮悠太 アコーディオン：森陽介 バラライカ・アンサンブル・ポーレ

歌に先立ち、昨年6月7日(中山先生が亡くなる一月前)神奈川県立音楽堂で開催された、合唱団「道」56周年定期演奏会の最後に百万本のバラを特別指揮されている渾身の姿がスクリーンに流され、参加者の感動を呼びました。バックコーラスの女性はオレンジの明るい

スカート、男性は黒のズボンで統一されていました。2曲目は、『私たちは元気に歌っていますと中山先生に届けたい』と語り「シベリアの密林で」を歌いました。

・・・休憩 15分・・・

《第2部》

9. バス・ソロ 岸本力 「道」「疲れた太陽」「聖なる湖バイカル」
バラライカ：北川翔 アコーディオン：大田智美 2曲目の「疲れた太陽」はタンゴのリズムででした。

10. 合唱団白樺 舞踊班 「ポリャンカ」
イーゴリ・モイセーエフ記念国立アカデミー民俗舞踏アンサンブルレパートリーより中山英雄 採譜・編曲 指揮：井澤武二 ピアノ：本間敦子 バラライカ：北川翔 アコーディオン：大田智美 コントラバス バラライカ：廣瀬謙 打楽器：岡山晃久

『中山先生は、踊りの中でアコーディオンを弾かれました。私たち舞踊班は先生の演奏を胸にずっと踊り続けて行きます。その中の1曲「ポリャンカ」を踊ります』と紹介。

女性7人は赤い靴を履き、ピンクのスカートを手に持ちスキップするように踊ります。男性2人は赤と紫のシャツを着てウクライナのコサックダンスを披露し客席を魅了していました。

11. 北川記念ロシア民俗楽器オーケストラ
「アムール河の波」「古き菩提樹」アコーディオン協奏曲「さびしいアコーディオン」
指揮：北川翔 1つ前「ポリャンカ」の演奏メンバーの北川翔さんが指揮に廻り、バヤン奏者が1人加わった以外はそのまま出演。

1曲目の「アムール河の波」演奏を終えたところで、コントラバスバラライカの弦が切れて張り替えのためちょっと中断することになり、楽器の紹介や中山英雄先生との思い出を語る場面がありました。

「寂しいアコーディオン」では、途中アコーディオンが前に出てソロ演奏する場面があり、「アコーディオンって本当に心に響く音色だ」と改めて感じました。

12. 合唱団白樺 「バイカル湖のほとり」「コサックの子守歌」「仕事の歌」
指揮：及川貢 ピアノ：本間敦子 アコーディオン：大田智美

『「平和でなければ 音楽もない」と平和を訴え続けた信念の音楽家でした。数多くある中山先生の作品の中から3曲歌います』と紹介。

女性は20人はいたでしょうか、おそろいのグリーンの地にきらきら光る刺繍のあるかぶり物を着けて登場。男性は10人で首回りと胸にかけて赤い色の刺繍があり、腰回りにも同系統の刺繍のついた衣装です。

1曲目の「バイカル湖のほとり」はアコーディオンソロから始まりました。2曲目は「コサックの子守歌」そして「仕事の歌」を歌いました。

ここで、中山英雄先生の奥様(大田光子さん)が紹介され、拍手の中舞台上で挨拶されました。

『中山の編曲した曲を情熱を込めて演奏してくださり本当に心から感謝しています。私は中山と年が18離れています。子どもが生まれ、子育ての面においては中山は本当にたくさん遊んでくれました。野球、サッカー、相撲、それは負けてしまったかなと思いますけれども、でも中山が出来ない事で私に出来ることがありました。料理です。』

『そして45年、励ましをいただきながらなんとか過ごして来れたかなと思います。そして中山はみんなが音楽を心から楽しめるようにということを中心に願っていました。私もこれからその中山の願いを少しでも実現するために力を出せたらいいなと思います。』(拍手)

挨拶のあと、5番目、アコーディオン「MIP」の演奏メンバーで、音楽センター中部金曜教室所属の田中積さんから花束が贈られました。

13. 合同合唱 「鶴」作詞：ガムザトフ 作曲：フレンケリ 訳詞：中村五郎 編曲：中山英雄 指揮：及川貢 ピアノ：本間敦子

プログラムの最後は合同合唱で「鶴」を演奏。満席の大きな拍手の中終演となりました。

作曲家・木下そんき先生がプログラムに寄せられたことは「盟友 中山英雄さんをしのんで」の中で、『アコ教育にアンサンブルを積極的に取り入れた事など、ひそかに誇りあいたいものです。これは歌声運動だけでなく、アコ教育の分野でも功績の1つであるはずです』と記しています。

終演後、また後日、たくさんの仲間から『いろいろな団体が出演しての大コンサート、素晴らしかったです』、『中山先生がいかに愛されて、多くのものを残してくださったかに、改めて思いをはせました』などの感想を伺いました。

写真は、アコーディオン演奏の様子のみ提供いただきました。実行委員会を組まれたみなさんありがとうございました。

(記：乙津)

2025年度 横浜アコーディオン愛好会 発表会

2026年1月25日(日) 開演 14:00 会場: 横浜青年館 多目的室



横浜アコーディオン愛好会は半世紀を超える歴史があり、毎年この時期に発表会を開いています。筆者の所属するアコーディオン教室とは日ごろから交流があり、今年も教室の仲間と聴きに行きましたのでその様子を紹介します。

写真は、毎回玄関に飾られるきれいなウェルカムボード。

定刻になると合奏、ナポリ民謡「サンタルチア」(編曲: 石居庸介) で幕が開き、続けてもう1曲、ポールモーリアの演奏で知られた「恋は水色」(編曲: 青山義久) の2曲ではじまりました。以降は、途中休憩をはさみ独奏、デュオ、二重唱、みんなで歌おう、講師演奏、最後に再び合奏。そんなプログラムです。(司会: 関 律子さん) ↓開幕演奏の様子



独奏の最初は、唐澤勇介 曲は「山のロザリア」(ロシア民謡)『昨年2月からメンバーになった』と紹介。3拍子でくり返した後半は、チャッ、チャッ、チャ、と細かくリズムを刻んで「ジャズ風の」素敵な編曲です。



独奏の2番、近藤 稔 曲は「鈴懸の径」(編曲: 西尾正)『1942年に発表された曲で、鈴懸はプラタナスとも言われ、木陰を作することを目的に各地で植えられている』と紹介。近藤さんがメロディーを、講師の森先生が左手でベースを入れて演奏されました。



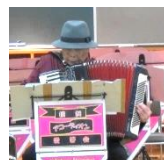
3番、藤原幸就 曲は「さんぽ」(編曲: 川口裕志)『ジブリのアニメ映画「となりのトトロ」の挿入歌で、あかるく元気な曲』と紹介。所々苦労されていたけれど、最後まで両手で弾き終えて席に戻ってきてホットした表情が印象的でした。一生懸命練習した様子が伝わってきて、筆者もあきらめずに練習しようと思わせる演奏でした。



4番、小池亨子 曲は「魅惑のワルツ」(編曲: 金子元孝)『1957年に公開された映画「昼下がりの情事」の主題歌として親しまれている』と紹介。重音がたくさん出てきて弾きにくそ

うだったけど、きれいな編曲なのでたくさん弾き込んでもう一度聴いてみたいと思いました。

5番、前半最後の独奏です。湯浅潤平 曲は「恋心」(編曲: 石居庸介)『以前講師だった石居先生からいただいた譜面があったので練習しました』と解説。日本で岸洋子が、恋は不思議ね・・・と歌いヒットした、イントロが印象的な曲です。



6番、《デュオ》小池亨子・湯浅潤平 曲は「アマポーラ」(編曲: 石居庸介)『1920年頃の作品です。アマポーラとは、ひなげしの花のことで、美しい恋人のことです』と解説。講師の森先生が後ろでそっと支えていました



7番、《二重唱》上田祐子・橋本加葉子 日本古謡「さくら さくら」(編曲: 池辺晋一郎)『去年11月に神戸で行われたうたごえ祭典で歌われました。当日は全国から集った270名を超える人数で歌った三部構成の歌を二人で歌いますのでどうなりますか』と紹介。さくらの開花が待ち遠しくなるきれいなハーモニーでした。



・・・15分休憩・・・



後半は～みんなで歌おう～で始まりました。曲は2曲、♪「上を向いて歩こう」そして、♪「ブルーライト横浜」(伴奏: 佐藤優美子)『坂本九の歌で広く知られ、1拍遅れて歌う独特のアレンジは母親から教わった小唄や邦楽の影響があったようです』と紹介。「ブルーライト横浜」は、『昨年闘病の末に亡くなられた石田あゆみさんの大ヒット曲で、横浜駅ホームの電車の鉄メロで使われているなど、たくさんに人に愛された曲です』と紹介。

後半独奏1番、橋本加葉子さん。演奏曲は「帰れソレントへ」と「聖者の行進」の2曲(編曲: 2曲とも石居庸介)。『帰れソレントへは、イタリアの男性

歌手が朗々と歌っている姿が浮かびますと』解説。また、聖者の行進は『誰が作った曲だろうかとGoogleで調べてみたら、アメリカ民謡でブラスバンドが演奏しながらリズムカルに奏でます』と紹介。帰れソ



レントへは流れるように、聖者の行進は途中におかずが入っていたり、後半では重音が続いたりテンポよく気持ちよく楽しい演奏でした。

2番、上田祐子 曲は「エデンの東」(編曲：川口裕志)『エデンの東のテーマ曲です。双子の兄弟と父親の愛憎を描いた作品というのですが見たことがないので、演奏するまでに映画を見たいと思っています』と紹介。「映画を見ることができましたか」と司会の問いかけに「はい、観ました」と演奏者は答えていました。



3番、黒田康弘 曲は「愛の挨拶」(編曲：青山義久・坂本光代)『威風堂々を作曲したエドワード・エルガーの曲です。後に妻となるキャロラインにプロポーズする際に贈った曲です。よくご存じだと思います』と解説。



4番、渡邊寿美子 曲は「Merry Widow Waltz」(編曲：Larry Yester)『先ほど～みんなで歌おう～でうたった方、オーストリアのフランツ・レハールが作曲したオペレッタです』と紹介



5番、田崎千晶 曲は「コム・デ・シネマ」(作曲：桑山哲也／編曲田崎千晶)『田崎さんは昨年8月に入会された新人さんです。桑山さんのライブで初めて聴いたときに雰囲気があってとってもかっこいいと感じて選びました。雰囲気を再現したいなと思いながら練習してきました。初めて横アコメンバーとして演奏するので見守って下さい』と紹介。初めて聴いた曲だけど、落ち着いた演奏で、澄んだきれいな音が流れていました。



6番、佐藤優美子 曲は「Ave verum corpus」(編曲：松永勇次)『フリーベース用に編曲された楽譜をスタンダードアコーディオンで弾くので左手に苦労しました』と紹介。静かにオルガンのような音色が会場いっぱいに流れていました。



7番、《デュオ》(佐藤優美子・田崎千晶)。曲は「雨にぬれても」(編曲：山内正治)『1969年に公開された映画「明日に向かって撃て」の挿入歌です。この映

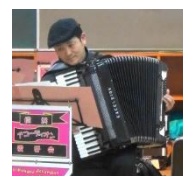


画をごらんになった方も

いるのではないのでしょうか』と紹介。二人が手をつなぎスキップして街を歩いている様子が浮かんで

きます。

次は講師演奏(森陽介)



『アルゼンチンタンゴの「コラソン・デ・オロ」

日本語では、黄金の魂とか心とか訳されています。途中コーラスの入るところがあります。そこを、アーアーでも、ラーラーでもいいのでみなさんに歌っていただけると嬉しいです』と紹介。

代表挨拶(塚本五郎)・・・みなさん寒い中ご声援ありがとうございます。最近は横浜アコのメンバーが



入っているいる施設を訪問したり、青葉区民際で演奏したりしていて、そこで聴いた人が是非うちにも来て下さいと声をかけていただくので、これからも練習してしていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

最後の2曲は合奏で「イエスタディ」(編曲：川口裕志)そして「小雨降る径」(編曲：石居庸介)。『「小雨降る径」は1935年に曲されたコンチネンタルタンゴの曲として有名です。日本ではシャンソンとして1986年度の紅白歌合戦で菅原洋一さんが歌っています』と紹介。



「イエスタディ」「小雨降る径」演奏の様子



アンコール「踊り明かそう」演奏の様子

今年もいろいろな編曲者の曲と出会えました。また、あたたかい素敵な演奏会でした。

(記：乙津)

江藤ようこバースデーライブツアー 見ごろ (56) 聴き 56 笑い 56! 湘南編

2026年2月28日(土) 開演 13:30 会場:ル・クラシック アルト館(藤沢)

横浜アコーディオン愛好会在籍の佐藤優美子さんから、沖縄の音楽つながりで知り合った大阪のマンドリン奏者(全国でバースデーツアーを行い、湘南編がラスト)と藤沢でライブを開くとお誘いがありました。佐藤優美子さんはアコーディオン合奏のみならず、4年前からアコーディオンの可能性を求めて、様々な楽器と音色を重ねて来ているそうです。

筆者は、開演時間に十分間に合うように出かけたものの、藤沢駅から会場までの途中、道がわからなくなり、地元の方に訪ねたらスマホで検索して、「あ、この近くですね、説明しているより一緒に行った方が早いから」と、その若い男性が会場まで案内してくださって無事到着したときには、開演時間を5分程過ぎていました。他にも遅れた方がいらしたようで、開演は13時45分頃でした。(写真:会場入口に立つ佐藤優美子さんと江藤ようこさん)



プログラムは配られず、司会から第1部:アコーディオン演奏、第2部:マンドリン演奏、第3部マンドリンとアコーディオンによるデュオ、の3部構成と説明がありました。第1部から順に紹介します。

第1部 アコーディオン演奏 佐藤優美子

『アコーディオンを松永勇次氏、森陽介氏に師事。2021年関東アコーディオン演奏交流会(コンクール)特別審査員賞受賞。2024年『荒木栄生誕100周年記念祭典』に合唱団による「地底のうた」伴奏を務める。横浜アコーディオン愛好会在籍。沖縄系ユニットちゅらりんくメンバー』と紹介

始めに、司会からアコーディオンについて、手のひらサイズの小さなハーモニカを使って少し解説。ルーツは雅楽の争にみる事ができ、音の出る仕組みを、ハーモニカと同じ構造のリードがアコーディオンの中に入っていると説明。ハーモニカは息を吹き込んだり吸ったりするけれど、アコーディオンは左手で中央の蛇腹を広げたり閉じたりすることで、楽器の中に空気を送り、中に入っているリードを震わせている。と説明していました。

演奏者、佐藤優美子さんは「明日から3月、春を迎えるのにふさわしい演奏会にしたい」と語り、最初の曲「黒い瞳」(ロシア民謡)を演奏。『女性に恋をした男性の苦しい胸の内を表している曲ですが、この曲はなんでこんなに胸に刺さるのでしょうか』と解説して演奏しました。

続いてビゼー作曲、組曲「カルメン」より「ハバネラ&トレアドール」を演奏。舞台はスペイ

ン、蛇腹を少し開き、ハバネラのリズムを掌で叩いて、アコーディオンは打楽器としても使えると説明。



次はシャンソン「パリの空の下」『メロディーはたいへん有名ですけど、歌詞がまた素晴らしい』と歌詞を読み上げ、

また、『この曲には雷鳴が出てきますが、それはこんな音です』と複雑な音を解説の中で弾いて見せてから演奏しました。

次の、「さくらんぼの実る頃」は佐藤優美子さんの伴奏で、渡邊寿美子さん(横浜アコーディオン愛好会在籍)が歌いました。さくらんぼ色をイメージしたのか、えんじ色の帽子が曲とよく合っていました。(下の写真)



佐藤優美子さんの演奏ジャンルは広く、次はモーツァルトが死の半年前に書かれたといわ

れている「アヴェ・ベム・コルプス」『僅か 46 小節の短い曲です』と紹介。

第 1 部の最後は、アコーディオンデュオ(佐藤優美子・田崎千晶)『田崎さんは横浜アコーディオン愛好会の若手メンバーです』と紹介されました。曲は、アメリカ映画「明日に向かって撃て」の主題歌「雨にぬれても」です。



第 2 部 マンドリン演奏 江藤ようこ

『大阪在住、12 歳から独学でマンドリンを弾き始める。他にはない美しい音色は多くのミュージシャンから評価されている。佐渡裕氏が芸術監督・プロデュースを務めるオペラ 2021「喜歌劇メリーウィドウ」にマンドリン演奏で参加』などと紹介 また、マンドリンは、2 本ずつ 4 組、8 弦の楽器で、1915 年製の楽器を使っていると紹介。

1 曲目「カヴァレリアルスティカーナ間奏曲～サンタ・ルチア」



江藤さんは演奏しながら歌います。「サンタ・ルチア」は、自作の歌詞で歌いました。

次は、伊藤咲子さんの代表曲「乙女のワルツ～制服(松田聖子さんの歌)」

続いて、マンドリンは、ロシア民謡でも使われているので、ロシア民謡ふうオリジナル曲を作ってみましたと、「雪解けのロマーシカ」を演奏しました。マンドリンではアコーディオンのようにベースを刻めないのと、iPad でベースパートを流して



演奏しました。

次は、「ナポリ」スキップするような、細かい音符で賑やかな曲です。

次は、会場からのリクエストで急遽、ジブリの曲「千と千尋の神隠し」から「いつも何度でも」を弾き歌いました。続いて、春が待ち遠しいので春にちなんだ曲をと、「春よ、来い」と「つぐみ」を弾き歌いました。

第 3 部 マンドリン演奏&アコーディオン

第 3 部始まりに、マンドリン奏者江藤ようこさんの 56 歳誕生日を祝い、アコーディオン伴奏で会場の皆さんとハッピーバースデーを歌いました。



デュオの最初は「コンドルは飛んで行く変奏曲」。続いてブラジル音楽ショーロより「Vibrações」。心の震えという意味だそうです。クラリネット、あるいはサクソ、ホルンのような音色が印象に残りました。

続いてもう 1 曲ショーロで、サッカーの試合でブラジルがウルグアイと戦って 1 対 0 で優勝したときに作曲された「Um a zero」と紹介。初めて聴く曲が続きました。

最後は「涙そうそう」(下の写真) を司会がコールしながら会場のみみなで歌い、演奏者に花束が贈られて終了となりました。



客席とも近く、ホームコンサートのようで素敵な演奏会でした。※写真: 主宰提供(記: 乙津)

..... ホワイトボード (連絡はがきその他より)

関心ある方は、ホームページなどを開いて確認していただければと思います。

♪谷口・サンデートーク『アコーディオンを語る集い』♪

<https://taniguchi-gakki.jp/sunday.html>

タニグチ・サンデートークを動画で観ることができます。視聴可能な数が増えています。

♪かとうかなこ氏♪ <http://www.katokanako.com/index.html>

♪牧田ゆき氏♪ <http://www.planet-y.co.jp/makita/>

♪後藤ミホコ アコーディオンチャンネル♪ <http://www.mihoko-goto.jp> ☆2025年9月30日更新

2025年9月27日浜松楽器博物館にて、スタス/ヴェングレフスキー&後藤ミホコのデュエット演奏。

「ロシアの冬」を視聴できます。

～ロシア歌謡を伴奏～ たこさん (石橋幸) のディープな世界をお楽しみ下さい。

2026年4月5日(日)17:00～ 会場: ガルガンチュア (新宿ゴールデン街)

出演 石橋幸 (ボーカル、ギター) 後藤ミホコ (アコーディオン)

料金 2,500 (1ドリンク付き)

♪「ともしび」よりお知らせ♪ 事務センター移転のため住所、電話番号が変わりました

[事務所、門仲ともしびスタジオ \(稽古場\) アクセス - ともしびグループ](#)

〒171-0033 東京都豊島区高田3丁目21-11 高田橋ハイツ202 代表 03-6914-1621/FAX03-6914-1639

問合せ 03-6914-1621 ともしび事務センター (月～土11:00～17:00/日・祝休み)

《ともしび出前歌声》他は、ともしびのホームページでご覧下さい

☆4月9日(木) 横浜市神奈川区民センターかなつくホール 開演 14:15～16:15 (開場 13:40)

◇JR「東神奈川」駅より徒歩1分

参加費 2,000円

■他にもたくさんの方の場所で開催されます。ともしびのホームページでご覧下さい

♪ワリタエリコと小さな花冠のコンサート Vol.1 ♪

—銀の旋律 琥珀の歌— アコーディオンと3つの声が紡ぐ春の宵
ヴィオロンに響く秘密のアンサンブル。

日時 2026年4月4日(土) 開場 18:30 開演 19:00

会場 阿佐ヶ谷 ヴィオロン

◇JR「阿佐ヶ谷」駅北口より徒歩5分 レストラン ビッキー又隣

料金 自由席 1,000 (コーヒー付き) ※アルコール以外の持込可

申込 080-3155-2981 (ワリタ) ショートメールでお知らせいただくか、
erikoma333@gmail.com までご連絡下さい。



♪田ノ岡三郎ホームページより『蛇石れいこ LIVE』♪ <http://tanooka.net>

日時 2026年4月14日(火) 開場 18:30 開演 19:30

会場 南青山 MANDALA ◇地下鉄銀座線「外苑前」駅 1A 出口より南青山3丁目交差点を左折、外苑通り沿いの右側

出演 蛇石れいこ (Vocal & Piano) 田ノ岡三郎 (Accordion)

料金 4,500 (1ドリンク付き)

■他にもたくさんの方のライブが企画されています。田ノ岡三郎さんのホームページからご覧下さい

..... ホワイトボード (連絡はがきその他より)

♪第20回 五十嵐 美穂 アコーディオンリサイタル♪

日 時 2026年4月30(木) 開場 18:30 開演 19:00

会 場 めぐるパーシモンホール 小ホール

◇東急東横線「都立大学」駅より徒歩7分

予定曲目 ♪旧友 ♪スタイルミュゼット ♪コリオラン ♪こうもり

♪リベルタンゴ ♪セビリアの理髪師 ♪軽騎兵序曲

♪フライ・ミー・トゥー・ザ・ムーン 他

料 金 前売券 2,600円 当日券 2,900円 (小・中学生 1,000円)

申込先 五十嵐美穂 Tel&Fax 045-912-4525 定員 196人 (完全予約制)

支払方法 振込先: 三菱UFJ銀行 青葉台支店 普通 0355983



♪地元大好き!コンサート2026♪

日 時 2026年5月5(火・祝) 開場 13:30 開演 14:00

会 場 入間市文化創造アトリエ AMIGO!

◇西武池袋線「仏子」駅北口より徒歩5分

出 演 北川 翔 (バラライカ) 大田 智美 (アコーディオン)

スペシャルゲスト 黒澤 麻美 (ソプラノ)

ばららいかるてつと: 廣瀬 謙 (コントラバスバラライカ)

岡山 晃久 (パーカッション)

問合せ Mail: info@sho-kitagawa.net

※入間市出身で日本を代表するバラライカ奏者とアコーディオン奏者による年に一度の地元でのコンサート。今回はスペシャルゲストをお迎えして、クラシック、ロシア歌謡、昭和歌謡など、様々なプログラムをお楽しみ下さい!



♪第40回 ふれあいこんさあと♪ ビバ・アコーディオンニュース No.2 (2026年3月発行) より

日 時 2026年6月7(日) 開演 13:00 (予定) ※一般の方は入場無料です。

会 場 大阪府 松原市文化会館 ◇近鉄南大阪線普通「高見の里」駅から徒歩7分

出場募集内容

《独奏》演奏時間は3分以内 参加費 大人 3,000円/ジュニア (小学生・障害者) 1,000円
6分以内 (5,000円)

《合奏・重奏・アンサンブル》演奏時間は8分以内 参加費 大人 2,000円/ジュニア (小学生・障害者 1,000円) ※指揮者以外総勢分 (アコ以外のメンバーも) 必用です。

申込締め切り 2026年4月7日(火)

提出先 〒600-8335 京都市下京区住吉町 505-1-301 木下直紀

Email viva.accordion.official@gmail.com Tel. 090-4498-6936

■プログラムへ広告掲載のお願い B5版カラー 全頁 (横約 16.5×縦約 23.5cm) 40,000円 1/2

20,000円 1/4 10,000円 1/8 5,000円 (推奨画像サイズ 横 2274×縦 1585px) 締切り: 4月26日

※詳細は提出先にお問い合わせ下さい。

■お詫びと訂正

実行委員会ニュース4号 (11月11日発行) に誤りがありました。お詫びし下記の通り訂正致します。

・9ページ一般中級の部入選 ☆スマイル賞の写真に付けた氏名に間違いがありました。

(正) 伊藤 悠 (誤) 佐藤 悠

■関東アコ 次回実行委員会 2026年4月5日(日) 20:00~Web会議予定